

エコアクション 21 環境活動レポート

2018. 12～2019. 11
(2019 年度)

日本システム機器株式会社

承認	審査	作成
水野	水野	西山
2020 年 1 月 20 日	2020 年 1 月 20 日	2020 年 1 月 20 日

1. 事業活動

1. 事業所名：日本システム機器株式会社

代表者：代表取締役 水野 博之

2. 所在地

事務所：060-0031 札幌市中央区北1条東8丁目 片岡商事ビル

3. 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

環境管理責任者：代表取締役 水野 博之

担当者名：総務課長 西山 弘子

連絡先：電話 011-241-2631

FAX 011-241-3606

E-mail staff@n-sys.co.jp

4. 事業内容の概要

- ・コンピュータ、事務用機器、事務用品の販売並びに修理
- ・コンピュータプログラムの作成・開発並びに修理
- ・土木建築用資材及び設備機器等の開発・製造管理・販売

5. 事業規模（主要製品の生産量・出荷額、従業員数、事業所の延べ床面積等）

活動規模	単位	2017年	2018年	2019年
主要製品生産量	t	59	32	43
従業員	人	10	10	10
床面積	m ²	165	165	165

6. 事業年度 12月1日~11月30日

7. E A 2 1 適用範囲

日本システム機器株式会社

2. 環境方針

環境基本理念

当社は、コンピュータ事業及び環境事業を通じ社員の環境に対する意識向上と環境保全活動や資源の有効利用を進め持続可能な社会に貢献します。

環境方針

事業活動の環境負荷を低減する為、エコアクション21のガイドラインに従い、環境マネジメント活動を推進します。

1. 環境保全活動を推進する為、定期的に取り組状況の評価を実施し、見直しを行い継続的に環境マネジメントシステムの改善を行ないます。
2. 事業活動において、法規制及びその他の要求事項を遵守します。
3. コンピュータ事業部門、環境事業部門共に、廃棄物の排出削減に取り組みます。
4. コンピュータ事業部門においてWebシステムのプログラム一元化による作業ロスの軽減と管理面強化を図ります。
5. 廃棄物を出さないリサイクル100%商品や自然循環型モノ作りを基本に商品開発を進めます。
6. コンピュータ事業部門、環境事業部門共に拡販及び情報提供を推進します。
7. 地球温暖化防止の為、車両のアイドリングストップやエコカー導入、消費電力、冷暖房の削減に努めます。
8. オフィスでの事務・消耗品等の使用においてグリーンマーク商品の購入を推進します。
9. 地域社会の一員として、国や地方自治体等の実施する環境保全活動に全社員と積極的に参加し、社会貢献活動を推進します。
10. 環境基本理念・方針は社員に周知するとともに、社外の求めに応じ開示します。

改定日 2015年11月20日
日本システム機器株式会社
代表取締役 水野 博之

3. 環境目標とその実績

(1) 2019 年度環境目標及び実績

(2018 年度の実績値より目標策定する。)

環 境 目 標	2018 年度実績 (基準値)	2019 年度目標	2019 年度実績	評 価
二酸化炭素排出量	12685.38(Kg-CO2)	12567.56Kg-CO2)	12726.49(Kg-CO2)	
電力使用量	7,302Kwh	7,295Kwh 0.1%削減	7,439Kwh 2%増	×
ガソリン使用量	3299.53 L (3 台) 1099.84 L(1 台当)	3266.53L(3 台当) 1088.84L(1 台当) 1.%削減	3291.09 L (3 台当) 1097.03L(1 台当) 0.8%増 燃費 21.86Km/l	×
ガス使用量	20 m ³	20 m ³ (現状維持)	20 m ³ 達成	×
廃棄物排出量	0.515 t	0.51 t (▲1%)	0.7455 t 46.2%増	×
グリーン製品 (事務・消耗品) の購入品目件数	48 件	53 件 (10%増)	53 件 達成	○
商品の情報提供	15 件(※計)	15 件(※計)	22 件(※計)	○
展示会・勉強会開催件数			46.7%増 達成	
・コンピュータ事業部	※5 件	※ 5 件 現状維持	※ 0 件 未達成	×
・環境事業部	※10 件	※10 件 現状維持	※22 件 達成	○
展示会や DM 等による新規顧客獲得件数				
・コンピュータ事業部	4 件	5 件	6 件 達成	○
Web システム一元化 導入件数	2 件	5 件 (40%増)	2 件 60%減 未達成	×
廃棄物を出さないリサイクル 100%商品や自然 循環型の商品				
北のやすらぎ 新規顧客開拓数	10 件	10 件	18 件	○
サンドプラスハイ新規顧客開拓数	3 件	5 件	8 件	○
ノースドライ 新規顧客開拓数	10 件	10 件	13 件	○
NS スイパー 新規顧客開拓数		10 件	19 件	○

※北海道電力二酸化炭素排出係数 0.678 kg-CO2/kwh を使用 (電力使用量・ガソリン使用量及びガス使用量を含)

(2) 2019～2021 年 中期環境目標 北海道電力二酸化炭素排出係数 0.678 kg-CO2/kwh を使用

環 境 目 標	2018 年度実績 (基準値)	2019 年度目標	2020 年度目標	2021 年度目標
二酸化炭素排出量	12685.38(Kg-CO2)	12567.56(Kg-CO2)	12554.50(Kg-CO2)	12542.08(Kg-CO2)
電力使用量	7,302Kwh	7,295Kwh (▲0.1%)	7,287Kwh (▲0.2%)	7280 Kwh (▲0.3%)
ガソリン使用量	3299.53 L 1099.84L(1 台当)	3266.53 L (▲1%) 1088.84L(1 台当)	3263.24L(▲1.1%) 1087.75L(1 台当)	3259.93 L (▲1.2%) 1086.64L (1 台当)

ガス使用量	20 m ³	20 m ³ (現状維持)	20 m ³ (現状維持)	20 m ³ (現状維持)
廃棄物排出量	0.515t	0.510t (▲1%)	0.507 t (▲1.5%)	0.505t (▲2%)
グリーン製品(事務・消耗品) の購入品目件数	48 件	53 件 (10%増)	58 件 (20%増)	63 件 (30%増)
商品の情報提供 展示会勉強会開催件数	15 件(※計)	15 件(※計)	15 件(※計)	15 件(※計)
・コンピュータ事業部	※5 件	※5 件(現状維持)	※5 件(現状維持)	※5 件(現状維持)
・環境事業部	※10 件	※10 件(現状維持)	※10 件(現状維持)	※10 件(現状維持)
展示会やDM等による 新規顧客獲得件数				
・コンピュータ事業部	4 件	5 件	5 件	5 件
Web システム一元化 導入件数	2 件	5 件 (40%増)	5 件 (40%増)	5 件 (40%増)
廃棄物を出さないリサイクル 100%商品や自然循環型の商品 北のやすらぎ 新規顧客開拓数	10 件	10 件	10 件	10 件
サンドプラスハイ 新規顧客開拓数	3 件	5 件	5 件	5 件
ノースドライ 新規顧客開拓数	10 件	10 件	10 件	10 件
NS スイパー 新規顧客開拓数		10 件	10 件	10 件

(※二酸化炭素排出量は電力使用量・ガソリン使用量及びガス使用量を含む)

次年度(2020年度)取組内容 ※

①電力使用量 2018年度実績値より▲0.2%削減

設備等の省エネ管理として

- ・暖房室内温度 20℃・冷房室内温度 28℃を目安とする。・ブラインドによる冷暖房の負荷軽減。
- ・不用な証明器具の消灯や昼休み時の照明消灯。・OA 機器等の省エネモード設定等

②ガソリン使用量 2018年度実績値より▲1.1%削減

- ・省エネ運転の実施として、駐停車時のアイドリングストップや急発進・空ぶかしの抑制。
- ・定期的な点検・整備
- ・効率的な出張計画・運行経路の推進・出張先等の連絡を密にし、車輛使用の効率化を図る。

③ガス使用量 2018年実績値と同じ現状維持 20 m³

引き続き湯沸かし器使用は手洗いや冬期間や熱湯消毒のみ使用する。

④廃棄物排出量 2018年度実績値より▲1.5%削減

- ・廃棄物処理の基本分類をする。・コピー用紙使用枚数の削減(両面コピーでのプリント等)
- ・社内 LAN での資料や情報を共有
- ・コンピュータ事業部・リース満了物件のパソコン等をリース会社へ返却する。

⑤グリーン製品購入 2018年度実績値より 20%増

- ・環境に配慮した事務用品及び設備機器等購入推進

G N Pエコ商品ねっと・F S C認証・P E F C認証・木づかい運動マークの商品をグリーン製品とし環境視点に適合した事務用品・消耗品・コンピュータ関連備品を優先して購入する。

⑥商品の情報提供 展示会・勉強会開催件数は2018年度実績値と同じ概ね現状維持

自らが生産・販売・提供する製品サービスは15件3年間で45件を目標とする。

コンピュータ事業部展示会やDMによる新規顧客獲得数は現状維持とし5件3年間で15件を目標にする。

・コンピュータ事業部・毎月1~2回の展示会や勉強会開催を目標に取り組む

・環境事業部・全国規模の「環境イベント」や勉強会開催で商品紹介に取り組む

・商品紹介のDM発送やWEBでの商品紹介

⑦WEBシステムの一元化 2018年度実績値より40%増 目標は3年間で15件に設定

・コンピュータ事業部・システムを管理する上でのデータ管理の安全性を説明し、新規導入時やBACKUPの作業にWebシステムを提案し、作業ロスや売上増を図る。

⑧廃棄物を出さないリサイクル100%商品や自然循環型の商品開発・販売

新規顧客開拓数 目標は35件に設定(北のやすらぎ・サンドプラスハイ・ノースドライ・NSスイパー)3年間で105件を目標設定

⑨社会貢献活動・・・事務所周辺の清掃活動やペットボトルキャップやプルタブの回収活動

備考:(1)水使用量(排水量)は、共益費に含まれており把握することができないため、環境目標にはとりあげていない。ただし、節水のための日常管理は実施している。

(2)化学物質使用量は該当していない為環境目標には取り上げていない。

4. 主要な環境活動計画の内容

(1)総エネルギー量(総二酸化炭素排出量)の削減

●消費電力

※ 実施事項 ※	担当
暖房は室内温度20℃を目安とする。冷房は室内温度28℃を目安とする。	全員
ブラインドによる冷暖房の負荷の軽減。	全員
業務に支障のない範囲内での不要な照明の消灯、トイレの照明の消灯、昼休み時の照明の消灯。	全員
コピー機、パソコンは待機時に省エネモードに設定する。	全員
外出時や長時間、席を離れる場合はパソコンをOFFすること。	全員
電気ポットの勤務時間外の電源OFF	総務

●自動車燃料の効率化

※ 実施事項 ※	担当
駐停車時のアイドリングストップ、急発進・空ぶかしの抑制、その他点検・整備の励行など。	各車両担当者
効率的な運行経路の推進。	各車両担当者
同方向(出張)等の連絡を密にし、自動車使用の効率化を図る。	各車両担当者
給油一覧表の実施。	各車両担当者

(2)廃棄物量の削減

※ 実施事項 ※	担当
産業廃棄物・事務系一般廃棄物・再利用ゴミを分類する。	全員
リース終了時のパソコン等についてはリース会社に返却する。	コンピュータ事業部

●紙類使用量の削減

※ 実 施 事 項 ※	担 当
資料印刷、コピーは必要枚数を確認、最小限の部数での印刷を徹底する。	全員
印刷、コピー前に必ず内容確認し、ミスコピー、ミスプリント等を削減する。	全員
両面コピー、プリントが許容されるものは両面を使用する。	全員
社内、部門全体で使用する資料については共有化し、用紙の使用節減する。	全員
各自パソコンを利用し、回覧、予定表、資料等の社内文書を電子化を図る。	全員
使用済コピー用紙は社内文書や社内でのメモ書き等の用途で裏紙を再利用する。 (但し、顧客情報等が記載されている用紙については他の用紙とは別に管理することな処理う。)	全員
使用済みコピー用紙分別収納ボックス設置する	全員

(3)水使用量の削減

※ 実 施 事 項 ※	担 当
トイレ等の水量を最小にする。	全員
こまめに節水する。	全員

(4)グリーン製品の購入 (事務用品・消耗品等)

グリーン購入法・エコマーク・GPNエコ商品ねっと・FSC認証・PEFC認証 商品をグリーン製品とする

※ 実 施 事 項 ※	担 当
コピー用紙は再生紙を優先購入する	全員
エコマーク・グリーンマーク品他を優先購入する。	全員

5. 環境活動の取組結果の評価

(1) エネルギー量(二酸化炭素排出量)の削減

①消費電力：年間目標 7295Kwh/4,946.01(Kg-CO2) に対して使用量 7439Kwh/5,043.64(Kg-CO2)
2%増となり目標未達成。

②ガソリン使用量：年間目標 3266.53L (1台当り 1088.84L) に対して、使用量 3291.09L (1台当り 1097.03L燃費 21.86L)0.8%増となり目標未達成。コンピュータ事業部での税率対応やWindows10対応で出張の増加が要因と考えられる。引き続き各自エコドライブを意識することを徹底し、効率的出張計画をたて出張走行距離短縮を図ります。

③ガス使用量：年間目標 20 m³に対して、使用量 20 m³ 達成

(2) 廃棄物量の削減

年間目標 0.51t に対して、0.7455t と 46.2%増となり未達成となった。

事務所内を清掃し不要な物を整理した為目標数値より増加となった。引き続き、コンピュータ事業部・リース満了物件のパソコン等を自社での廃棄処理料が増加傾向のため極力リース会社へ返却する事とする。環境事業部とも引き続き、削減活動を行う。

(3) グリーン製品購入

年間目標 53件に対して、53件で目標達成

・グリーン製品購入・・・事務・消耗品類について品質や価格だけでなく環境負荷のできるだけ小さい商品を選んで購入する。

・事務機器メーカーアスクルでの対象商品・・・グリーン購入法適合商品・エコマーク商品・GPNエコ商品ねっと・FSC認証・PEFC認証・木づかい運動マークの商品をグリーン製品とする。

・事務用品以外・・・コンピュータ関連備品についても環境に配慮した商品を使用している。

(4) 商品の情報提供

展示会・勉強会開催件数年間目標 15件に対して、22件となり46.7%増となり達成となった。新規顧客獲得数は目標数値5件に対して6件となり達成できた。

- ・ コンピュータ事業部・・・毎月1回～2回の展示会開催を目標にしたが、税率対応やWindows10対応で展示会・勉強会を開催出来ず件数0件だった。
- ・ 環境事業部・・・毎年全国で開催される「環境イベント」や代理店主催の勉強会・展示会に積極的に参加し、自然循環型商品の開拓や拡販等環境活動に取り組んだ。札幌地下歩道空間でのパネル展に出展し環境活動に取り組んだ結果、売上に繋がった。
- ・ 海外の代理店より「北のブランド2019」認証について問い合わせがあり、情報提供した。結果として毎年展示会・勉強会を実施しているの、環境事業部・コンピュータ事業部の取り扱い商品の認知度UPには繋がっている。

(5) Webシステムの一元化 年間目標 5件に対して、2件となり60%減となり未達成となった。

- ・ 税率対応やWindows10対応で、新規の提案ができなかった。

(6) 廃棄物を出さないリサイクル100%商品や自然循環型の商品顧客開拓件数

- ・ 新規顧客開拓数 年間目標 53件に対して53件 達成できた。

(7) その他の取り組み

- ・ 継続してペットボトルキャップやプルタブの回収活動を積極的に取り組んでいる。
- ・ 札幌商工会議所より塗壁材『北のやすらぎシリーズ』が北海道を代表するにふさわしい独自のブランドとして認証され、引き続き 北のブランド2019の認証更新し、道内外の展示会や商談会で認証状を展示しPR強化に取り組んだ。海外の代理店も営業資料として活用している。
- ・ 胆振東部地震で個人レベルではあるが、継続しボランティア活動に参加した。

6. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

適用となる主な環境関連法規については、廃棄物の処理及び清掃に関する法律、札幌市における規制基準の遵守を行なっている。また、違反や訴訟等については、1件もない。

7. 代表者による全体評価と見直し結果

① 環境方針について

特に変更なし

日常的なエネルギー節約のルールを決め、取り組んでいます。引き続き取り組みの推進を図ることとします。

② 環境活動の実施状況と環境目標の達成状況

活動については計画通り実施している。電力使用量・ガソリン使用量・廃棄物排出量・WEBシステム一元化導入数については未達成だが、要因も分析出来ているので、今後も従来通りの活動に取り組むこととした。その他の目標数値についてはグリーン製品購入品目数・商品情報提供件数は達成出来た。来期は環境目標達成については厳しい状況ではあるが、日々、削減努力の徹底や商品情報提供を展開し、件数増加を図ることにより売上増に繋げること。WEBシステム導入のメリットについても広く情報提供をすることが大切です。

③ 環境法規制及びその他の要求事項の順守状況

問題なし。・産業廃棄物管理票交付状況報告書を札幌市に提出

④ その他・・・今年度も北海道庁ロビーや地下街歩行空間でのパネル展示し、少しでも多くの人に知っても

らう為にも各種イベントで環境活動を説明している。

- ・札幌商工会議所より塗壁材『北のやすらぎシリーズ』が北海道を代表するにふさわしい独自のブランドとして認証され、引き続き 北のブランド2019 の認証更新し、道内外の展示会や商談会で認証状を展示しPR強化に取り組んだ。又海外の代理店へ北のブランド2019 認証についてや新聞掲載された環境商品の記事等情報を提供した。海外での認知度アップに繋げている。
- ・台風や地震の際の緊急連絡網や防災グッズ等を再度見直した。個人レベルでの胆振東部地震のボランティア活動を継続している。
- ・来期はエコカー1台入れ替え予定

※9月7日(土) 事務所周辺 清掃活動

※ 9月7日(土)毎年実施している『クリーン作戦』 事務所周辺の歩道や近所の保育所近くゴミを拾う空き缶やタバコの吸殻・落ち葉等を社員で集め清掃に取り組んだ。清掃活動を通して地域貢献に努めていきます。



※10月5日(土) 火災による避難訓練 開催

※避難訓練計画通りに行った。

台風や地震の際の緊急連絡網や防災グッズ等を再度見直した。個人レベルでの胆振東部地震のボランティア活動を継続している。防災意識を高めることを全員で再確認した。

※ 私達の取り組み活動 ※

資源の節約

シュレダー紙入れ BOX や古紙入れ BOX 設置や事務所内に裏紙再利用の為、紙分別 BOX を設置。裏紙の再使用率 UP につながった。シュレダーゴミ・使用済（古紙）はリサイクル業者へ。



二酸化炭素の削減



節水の励行

使用していない場所の不要な照明の消灯表示

給湯室やトイレでの節水表示



ペットボトルのキャップやプルタブの回収を集めることで世界の子供にワクチンを送ることができます。